

建築人

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.742

2026

4





このページの新企画「建築人×写真人」の掲載希望建築物を募集しています。本企画は会員が手がけた建築作品を、写真家MOAIによる独自の視点と表現で、どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを楽しんで頂ける方を歓迎いたします。皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。会員の皆さまの応募をお待ちしています。

「MOAIの独言」

日々心に引っかかった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身

1985年大阪芸術大学卒

同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社

あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる

1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立

大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2026.04 No.742

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「ギャラリーのある家」2024年

第17回 建築人賞奨励賞 受賞作品

設計：二井清治建築研究所

施工：阿佐建築工務

撮影：母倉知樹

高齢になっても快適に住み続けられる住まいの依頼を受け、街とゆるやかにつながる小さな住宅を計画した。玄関とプライベート空間の間に来客を迎えるギャラリーを設け、道に面した庭の扉は日中開放できる。プライバシーを守りながら住まいを街に開くことで街と共に生きていく。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「塩野義本社移転改修」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店×大林組JV

「関西国際大学神戸山手キャンパス4号館情報学部リニューアル」

設計：アークスコーベ・教育施設研究所設計共同体

施工：吉川組・三日月建設共同企業体

「光の風の塔」

設計：井上久実設計室

施工：西友建設

8 第44回大阪市景観建築賞
(愛称 大阪まちなみ賞) 入賞作品

12 動静レポート

13 Topics

14 Information

16 News of Note

18 記憶の建築

「京都会館(現・ロームシアター京都)」1960年竣工 / 2016年改築
歴史の忘却に抗するために / 松隈 洋

建築人 No.742 2026年4月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：河野 学 荻窪伸彦 笠松哲司

川北武志 小谷美樹 昇 勇

中北 力 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

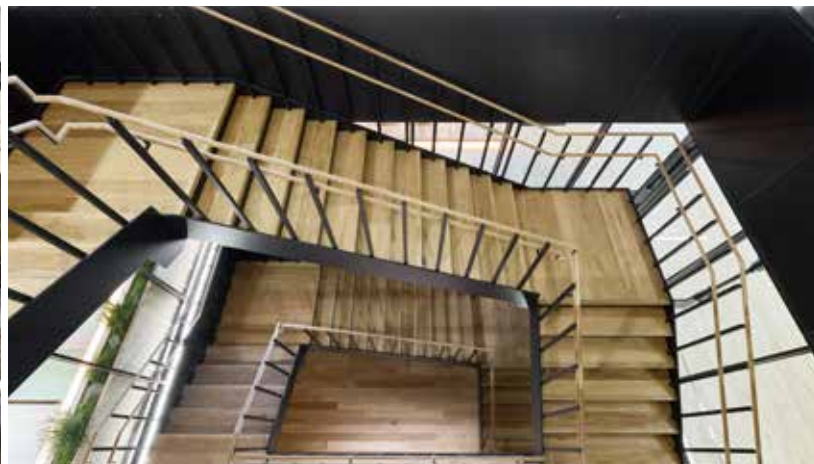
令和8年4月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



梅田の一等地、グラングリーンに本社移転するプロジェクト。親会社の「塩野義製薬」は3フロア分の各階中央に2箇所の連絡階段を新設。連絡階段ごとに異なる世界観が展開されることで、各部署の垣根を取り除き、自然なコミュニケーションが生まれる空間を実現した。塩野義グローバルヘッドクォーターの顔となるオフィスである。一方、子会社の「シオノギヘルスケア」は自然を感じられる空間設計を採用。世界の絶景を題材にした空間を十数ヶ所に配置している。両社は安心・安全を大前提としながら、豊かな空間構成によって、フレキシブルで高効率、そして思わず出社したくなるオフィスの実現を目指している。
(女鳥剛・馮植)

所在地：大阪市北区

用途：オフィス

竣工：2025.11

構造規模：

地上：鉄骨造(柱CFT)

地下：鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄鋼造・鉄筋コンクリート造

延床面積：塩野義製薬11560.2㎡

シオノギヘルスケア1723.0㎡

写真：藤岡優介



本建物は1988年（昭和63年）に竣工し、新設された情報学部の利用に対応するため改修工事を行なった。主な課題は外壁タイル部におけるコーキングの劣化による雨水浸入であった。既存タイルの上に高粘着な下地材を薄く塗り込み、凹凸のないフラットな壁面に仕上げたうえで、吹付仕上げへ更新した。外観は六甲山の御影石や地域植生との調和を意識した色彩とした。教室において、AV機器やネットワーク環境、什器を整備し、双方向の学習の場を、内田洋行と共に、情報教育に適した学習空間の質向上を図った。空海のいわれのある再度筋（ふたたびすじ）のように、2026年4月に再び新たな学生の教育の場となる。

所在地：兵庫県神戸市
 用途：学校
 竣工：2026.02
 構造規模：RC造
 地上4階
 地下1階
 敷地面積：1,872.11㎡
 建築面積：1,102.99㎡
 延床面積：3,540.31㎡
 写真：松村芳治



敷地は大阪市生野区で市内でも屈指の高密度な住宅地にあり、新旧の住宅が混在する環境です。この家は、若い夫婦と二人の小さな子供たちの住まいで、隣近所を気にすることなく、家族がのびのびと暮らせる、健康的で快適な住まいを目指しました。

近隣に面する開口部は最小限とし、その代わりに建物中央の“階段室”を屋根から突き出して“窓つきの塔”とすることで、光と風が室内に取り込まれ、また同時に、室内での拡散と循環が生まれる、と考えました。“階段室”は実際には壁で囲われた閉じた空間ではなく、部屋と視覚的にも空気環境的にも繋がっています。

冬には1階の床下エアコンからの暖気が、“階段室”を通して上階に届き、夏には冷気は上部のエアコンから下階に流れます。

所在地：大阪市生野区
用途：1戸建て住宅
竣工：2025.04
構造規模：木造2階建て
敷地面積：89.87㎡
建築面積：65.52㎡
延床面積：134.12㎡
写真：富田英次

視点交差 建築人×写真人

建築と写真が交差する、建築人ビジュアル企画

本企画は会員が手がけた建築作品を写真家MOAIによる独自の視点と表現で、どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。

写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを楽しんで頂ける方を歓迎いたします。

皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。

会員の皆さまの応募をお待ちしています。



募集対象建築物

本会会員が設計・施工などに関わった建築物
(竣工年・建物用途・規模不問)

条件：撮影・掲載許可が得られるもの
(施主様等への許可は応募者が取得)



応募方法

詳細問合せ・申込は事務局までご連絡ください

掲載費用：15,000円(税込)

応募に必要な情報(申込後用意頂くもの)

- ・竣工写真2～3点(建物の伝わるもの)
- ・建築物名称、所在地、竣工年
- ・設計者(設計事務所名または設計者名)
- ・施工者



掲載内容

掲載場所：おもて表紙の裏ページ

- ・写真家MOAIによる撮り下ろし作品(大サイズ)
- ・応募時の竣工写真(小サイズ)
- ・建築物名称、竣工年、設計者名、施工者名
- ・写真家名称、など

視点交差 建築人×写真人



掲載ページイメージ

写真家 MOAI (プロフィール)

岩手県出身
1985年大阪芸術大学卒
同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
あらゆる業種業態のクライアントの撮影に関わる
1996年フリーランスとなり
Photo Office MOAI設立
大阪を拠点に広告写真中心に活動中
建築人2025年7月号より表2に「MOAIの独言」掲載中

「建築人」は会員の皆様で創る会誌として、本企画を進めています。

第44回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)入賞作品

主催 大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部大阪地域会・(一社)日本建築協会

◆表彰目的 周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心とするまちなみを表彰することにより、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、都市景観に対する意識の高揚を図ることを目的とする。

◆対象 大阪府域内の建物(令和2年8月1日から令和6年7月31日までに完成したもの)及び建物を中心としたまちなみ(令和6年7月31日までに完成したもの)で、一般の方々から推薦を受けたもの。

◆審査委員 ※50音順 審査委員長*

加藤 精一(建築)
(一社)大阪府建築士事務所協会理事

岸辺 護(新聞)
読売新聞大阪本社編集局社会部長

嶋 高宏(デザイン)
(一社)総合デザイナー協会DAS常任理事

武田 重昭(造園)
大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻准教授

寺地 洋之(建築)
(公社)大阪府建築士会特任顧問

橋寺 知子(建築)
関西大学環境都市工学部建築学科准教授

藤本 英子*(芸術)
京都市立芸術大学名誉教授

若本 和仁(都市計画)
大阪大学大学院工学研究科附属フューチャーイノベーションセンター准教授

◆審査総評

本年度も多くの応募をいただき、審査対象は37件となった。その中で建物30件、まちなみ7件であり、ほぼ昨年同様の件数となった。例年通り審査資料に基づき1次審査を行い、トップ13件を選出し、現地審査に挑んだ。現地視察は昨年同様、現地での設計者等の説明を割愛し実施した。視察後すぐに2次審査を実施、投票による審査の結果、トップに大阪府知事賞となる「茨木市文化・子育て複合施設 おにくる」が選ばれた。その後、上位の数件について慎重に審議を行い、「御堂筋ダイビル」を大阪市長賞に、審査員特別賞に「アーバンネット御堂筋ビル」を選出した。本年度はこれまで選出してきた「緑化賞」と「建築サイン・アート賞」について、特別に選ぶことをしなかった。大阪都市景観建築賞という活動は、優れたものを選出することで、どの

ように計画することがまちなみに貢献できるのかを示す役割を持つが、近年の現地審査では緑もサイン・アートも、いずれも優れた設計で調和がとれている案件がほとんどとなっている。特にそのテーマを取り上げることで、全体の設計魅力に焦点が合わないのではないかとの意見もあり、トップ3賞以外の5件を奨励賞とすることとした。奨励賞の「Cafe N+」は、背景の建築の瓦屋根を絶妙に借景とし、まるでその一部のように建てられている。「高槻市安満遺跡公園パークセンター」は、北摂の山並みを背景に、広い公園の広がりにもやみに主張することなく、水平の広い屋根をのせた建築が調和している。「イノベーションセンター MIZUNO ENGINE」は、大阪港の南港に魅力的な建築で新たな拠点づくりを、緑と共に実現している。「JPタワー大阪」は、大阪

駅の重要な駅前顔として、単体だけではなく周辺との関連性を地上でも2階レベルでも作り出し、変化ある視点場も形成している。「ONE DOJIMA PROJECT」では、巨大な造形物とも思える建築をまちなかに調和させるために、周辺での緑の十分な設え、まちかどへのアート作品の設置を行い、見上げの圧迫感を軽減している。結果的には奨励賞が並ぶ形となったが、前述したように、小から大規模までその規模に関わらず作品としての総合力が高まったと捉えることのできる審査結果となった。



審査委員長 藤本英子

審査風景



大阪府知事賞 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル



建築位置：茨木市駅前3-9-45
完成年月：2023年10月
主用途：市民センター・図書館・劇場・子育て支援施設
建築主：茨木市
設計者：伊東豊雄建築設計事務所・竹中工務店共同企業体
施工者：(株)竹中工務店
撮影者：Nacasa & Partners Inc.

〈講評〉茨木市の中心部で、周辺に公共施設が集まる地域に新たに生まれたこの施設は、前面広場にも、室内にも、緑ある各階のテラスにも、いつも世代を超えて人々が溢れる、魅力的な空間となっている。充実した立体的な変化をつける緑化計画と、壁面、テラスなどにポイントとなるアート作品の設置が、さらに施設の魅力を高める。この施設が、周辺の道路や広場空間の将来の魅力づくりの布石になるに違いない。
(審査委員長 藤本英子)

大阪市長賞 御堂筋ダイビル



建築位置：大阪市中央区南久宝寺町4-1-2
完成年月：2024年1月
主用途：事務所・物販店舗
建築主：ダイビル(株)
設計者：(株)日建設計
施工者：(株)大林組
撮影者：Akira Ito.aifoto

〈講評〉吹き抜けのように上層部を持ち上げ、下層部に工業製品のようにメタリックな旧ビルの雰囲気を残す角の丸いステンレスボックスと緑、テラスを適度のスケール感で立体的に配置することにより、街角に呼応したデザインとしています。上層部は、茶系で彩色された横ルーバーを窓全面にまわらせ、縦のステンレスフレームとともに、無機質なまちなみに彩りを与えています。また、御堂筋の裏側まで正面のファサードを回り込ませる等、表裏のない景観形成への配慮が感じられます。旧ビル特徴を継承しつつ、歩行者の視点からまちなみに新たな魅力を加えた好例といえましょう。
(審査委員 加藤精一)



審査員特別賞 アーバンネット御堂筋ビル



建築位置：大阪市中央区淡路町4-30-2

完成年月：2024年1月

主用途：事務所・商業施設

建築主：NTT都市開発(株)

設計者：KAJIMA DESIGN (実施設計)

(株)NTTファシリティーズ (基本設計)

施工者：鹿島建設(株)

撮影者：Forward Stroke inc.

〈講評〉御堂筋の景観を維持発展するには、歴史や周辺建物と呼应しながら設計すべきとし外観・外構を調律させているのが本ビルの特徴である。新ガイドラインで先に建っている北側のビルなどから影響を受け、かつての御堂筋を彩っていた「ボツ窓」を下層部外壁に採用したことで、本ビルは御堂筋のかつてのまちなみの遺伝子を更に引き継ぎ風格と親しみを生み出した。歴史や周辺環境と呼应する設計事例として高く評価された。(審査委員 寺地洋之)

奨励賞 イノベーションセンター MIZUNO ENGINE



建築位置：大阪市住之江区南港北1-12-35

完成年月：2022年8月

主用途：研究施設

建築主：ミズノ(株)

設計者：(株)日建設計

施工者：(株)大林組

撮影者：株式会社仲和

〈講評〉咲洲地区には、大規模で外部に対して閉鎖的な建物が多く、徒歩での移動は少々退屈だ。そんな中で建物の造形や素材を工夫し、また駅からのペデストリアンデッキを意識して緑地や外部施設を配し、また研究活動も垣間見える点に親しみが感じられる。(審査委員 橋寺知子)

奨励賞 Cafe N+



建築位置：高槻市野見町6-6

完成年月：2024年4月

主用途：商業施設

建築主：宗教法人野見神社

設計者：(株)Horibe Associates

施工者：(株)小阪工務店

撮影者：三木夕渚

〈講評〉野見神社の施設で高槻城公園芸術文化劇場に隣接する。敷地境界を感じさせない外構と、視点場によっては劇場の施設にも見える秀逸な建築デザインで、時代の異なる地域のシンボルをつなぎ、景観の向上に寄与している。(審査委員 若本和仁)



奨励賞 JPタワー大阪



建築位置：大阪市北区梅田3-2-2
完成年月：2024年2月
主用途：オフィス・商業施設・劇場・ホテル
建築主：日本郵便(株)
JR西日本ステーションシティ(株)
(株)JT B
設計者：(株)日建設計
施工者：梅田3丁目計画(仮称)建設工事
共同企業体
撮影者：Akira Ito.aifoto

〈講評〉大阪の玄関口にふさわしく垂直性を強調したスケール感のある外観デザインの「JPタワー大阪」は、とくに大阪駅前広場に面した周りのまちなみと共生したスケール感が素晴らしい。外観からは見えないが地下通路との連動制もよく、大阪まちなみ賞にふさわしい建造物だ。(審査委員 嶋 高宏)

奨励賞 高槻市安満遺跡公園パークセンター



建築位置：高槻市八丁畷町12-3
完成年月：2019年3月
主用途：その他(体験学習施設)
建築主：高槻市
設計者：(株)INA新建築研究所 西日本支社
施工者：大鉄工業(株)
撮影者：高槻市

〈講評〉唯一「建物を中心としたまちなみ」として最終審査に残った。シンプルな形状が周囲の美しい山並みと調和し、開放的な空間が市民を引き寄せる。こどもたちの遊ぶ姿や歓声も「まちなみ」の中に溶け込んでいくようだ。(審査委員 岸辺 護)

奨励賞 ONE DOJIMA PROJECT



建築位置：大阪市北区堂島2-4-4
完成年月：2024年1月
主用途：住宅・ホテル
建築主：東京建物(株)
設計者：(株)日建設計
施工者：(株)竹中工務店
撮影者：Nacasa & Partners Inc.

〈講評〉水都大阪のスカイラインに新しいリズムを生んでいる。特に夕陽を背景に眺める南東面のフォルムは、堂島川を抜ける風を感じるような動きがある。遠景にこのアイストップを探すのが水辺散策のひとつの楽しみになりそうだ。(審査委員長 武田重昭)



動静レポート

会長動静

- 2/26 東大阪市固定資産評価審議会
- 3/6 第3回医療建築連携自治体実践委員会、命を守るひと部屋断熱・耐震委員会、在阪建築4団体会長・支部長意見交換会
- 3/9 建築士登録機関等連絡協議会
日本建築士会連合会正副会長会議
- 3/10 大阪府知事感謝状贈呈式
- 3/12 日本建築士会連合会財政健全化検討TF
日本建築士会連合会理事会
- 3/13 修成建設専門学校卒業式
正副会長会議、運営会議
- 3/18 理事会
- 3/23 ウクライナ支援WEB会議
- 3/25 あすなろ夢建築表彰式
近畿会長会議
近畿建築士会協議会

3月度 理事会報告

日時 3月18日(水) 16:00～17:30
場所 KKR ホテル大阪及びWEB
出席 理事 42/45名 監事 3/3名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会

(円)	2月計	累計
収入	5,527,005	148,894,039
支出	8,408,504	133,789,084
差引	-2,881,499	15,104,955

(人)	2月	入会	退会
正会員	2,086	6	-13
準会員	29	0	-1
特準会員	22	0	0
賛助会員	172	0	0
計	2,309	6	-14

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) 令和7年度決算見込

賛助会費や行政受託事業、CPD登録、定期講習等の堅調な収益により、収支差額は

約1,400万円で推移していることを報告しました。

(3) 公益社団法人に必要な理事会承認事項

①令和8年度事業計画は、公益社団法人としての基本目標を定めるとともに、公益目的事業部門は(公1)地域社会へ貢献を図る事業、(公2)建築文化の発展を図る事業、(公3)建築士の育成等を図る事業の3区分、及び収益事業部門とその他事業部門の3部門として、各部門の事業概要を承認しました。

②令和8年度予算は各部門の実績提示額を基に審議を行い、収支総額1億2,000万円、差引額0円として承認しました。

③令和8年度は資金調達及び設備投資の見込みがないことを承認しました。

④令和8年度の定時総会は5月20日にKKRホテル大阪において開催し、記念講演には新居千秋氏を迎えてご講演いただくことを承認しました。

補足)本議案の承認により公益認定法施行規則第56条(事業計画書等の提出)に基づき大阪府へ提出します。

(4) 令和8年度会務分掌案

次期役員候補者を含む理事47名、監事3名による会務分掌案を承認しました。重任・新任の役員候補者は本年5月の定時総会で選任されます。

【報告事項等】

(5) 事業執行報告

定款第21条4項に基づき、会長、副会長、常任理事(部門長)、専務理事が事業執行報告を行いました。

(6) その他

①令和8年度理事会・運営会議の開催日程を報告しました。

②昨年12月4日に行われた公益立入検査の結果通知を報告しました。指摘事項である「寄附金の使途が明確化された書類の整

備」、「理事会の出席率向上」、「理事会での事業執行報告者の明文化」についての対応状況を、大阪府へ提出する本年度の事業報告書類に添付し回答することとしました。

大阪市から高齢者住宅改修費給付審査業務を受託

令和8年度の「大阪市高齢者住宅改修費給付事業」の審査業務を、大阪市福祉局から昨年度に引き続き受託しました。

本事業は、居宅介護住宅改修費を利用する方に対し、介護保険制度を補完する制度として工事費用の一部を給付する大阪市独自の制度です。

本会では高齢者の住宅改修に詳しい女性委員会が中心となって担当しており、審査内容のチェックを行うなどの業務を務めております。

現役員、次期役員候補者 交流会の開催

3月18日の理事会終了後、KKRホテル大阪において、現役員と次期役員候補者の交流会を開催し、来年度も引き続き、建築士会を盛り上げていくよう意志を固めました。昨年度に引き続き、賛助会員の皆様にもお声がけし、日頃の本会活動へのご協力に対して御礼申し上げます。



第20回国際企画海外研修旅行「インドネシア～美の回廊を巡る」

日程：令和8年2月19日(木)～2月25日(水)

会場：インドネシア共和国(ジャカルタ、ジョグジャカルタ、スラバヤ、バリ島)

参加者：10名

インドネシアは、新型コロナウイルス蔓延の2020年以前から、国際交流を検討しており、今回の研修旅行は、延期となっている交流検討の再スタートを兼ねた訪問です。

19日は、日本から、計8、9時間でジャカルタに到着しました。現地は熱帯気候で蒸し暑く、日本との気候の違いを感じました。

20日はジャカルタで、モナス、イスティクラル大モスク、旧市街などを見学し、戦後のインドネシア独立の歴史やオランダ植民地時代の街並みに触れました。

21日はジョグジャカルタで、世界遺産ポロブドゥール遺跡を見学しました。ポロブドゥール遺跡の立体曼荼羅の迫力に驚き、また、世界遺産の修繕・保護について学びました。

そして21日中に高速鉄道で、スラバヤへ向かいました。そこでは、スラバヤ工科大学Nastiti先生、チプトラ大学Ni先生と夕食を

共にし、インドネシア建築団体をご紹介いただく等のお話ことができました。

22日は、ホテル・マジヤパヒト・スラバヤや英雄記念碑等を見学した後、スラバヤ工科大学を訪問しました。ここでは、滋賀県立大学名誉教授の布野修司先生が設計されたスラバヤ・エコハウス(実験集合住宅)を見学し、建物の中央吹き抜けから煙突効果によって空気を抜く仕組み等、インドネシアの気候風土に適したパッシブ手法の仕組みを勉強しました。

23日はバリ島で、タマン・アユン寺院、ウルワツ寺院を訪問し、民族舞踊ケチャ(ク)ダンスを鑑賞するなど、インドネシア・バリ島の伝統文化に触れました。

24日(25日は機中泊)は、連日から続く大雨により、宿泊したホテルが床上浸水し、周辺道路も冠水していたため、予定していた見学



河野 学(国際委員会 委員)

を取り止めました。日本においても集中豪雨の災害が発生するときもあり、その対応を考えさせられる日となりました。

以上、大阪府建築士会ならではの貴重な体験ができましたことは、岡本会長、森田特任相談役をはじめ、関係者の皆様のご尽力・ご協力によるものであり、この場をお借りして心より厚くお礼申し上げます。



スラバヤ工科大学にてNastiti先生(左前)、Ni先生(右前)と共に

Talk Relay わたしの推し 「フラワー・アレンジメント」

私は、大学入学を機に、12歳より続けた茶道の稽古場を、師の御自宅に移した際、華道を学び始め、昭和58年「紫雲流・準師範」、平成6年「未生流・新花教授(美幸甫)」、平成7年「師範(明昇斎美幸甫)」を頂戴しました。その後、洋花に転向し、「IFA国際フラワーアレンジメント協会」、そして、「BRIDES」「AIBAアーティフィシャルインテリアブーケ協会」の主宰である「渡辺俊治」先生より、生花でない物を、如何に生花のように見せるかを学んだ際、流儀花を始めとする和花が役立っている事に気付きました。

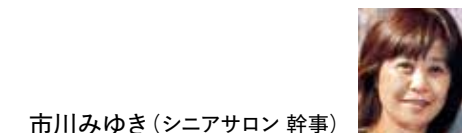


建築にそぐうアレンジメントを求めている時、「北欧フラワーデザイン協会」「LINOKA

Kukka」代表の「ヘンティネン・クミ」先生に出会いました。日本の池坊、単身渡英して、イギリス、オランダで、花の勉強をなさった先生が、最後に行きついたのは、北欧フラワーデザインのパイオニアである「ヨウニ・セツパネン」氏のフィンランドデザインでした。



日本は、ヨーロッパスタイルの一部であるアメリカンスタイルが主流だと知りましたが、フィンランドの「ナチュラル」「シンプルモダン」デザインは、本当に難しいです。現在、フィンランド語で、「森・花」を意味する「METSÄ Kukka(メツァ クッカ)」を愛称



市川みゆき(シニアサロン 幹事)

として、受注販売・講習を行っています。シニアサロンでも、Xmasアレンジに挑戦頂きました。

建築士であるメンバーは「作る」「考える」「創造する」「デザインする」ことに長けていて、小さな個々の世界を表現し、出来上がった作品は、夫々の個性が垣間見えるものとなって、感動しました。



建築士会からのお知らせ

大阪府建築士会会員の皆様 令和8年度定時総会のご案内

- 本年度の定時総会は5月20日(水)に開催いたします。詳細は今月号に同封のご案内兼出欠票をご確認ください。
- 定時総会は総正会員の1/3以上のご出席(委任状を含む)が必要となりますので、必ずご返信をお願いいたします。
- 議案書は当日会場にてお渡しいたします。

令和8年建築士試験案内

受験申込は、原則として「インターネットによる受付」のみとなります。

◇受験申込受付期間(全資格共通)

4/1(水)10:00~4/14(火)16:00

■一級建築士試験

◇学科

試験日程 7/26(日)

合格発表(予定) 9/2(水)

◇設計製図

課題発表(予定) 7/24(金)

試験日程 10/11(日)

合格発表(予定) 12/23(水)

■二級建築士試験

◇学科

試験日程 7/5(日)

合格発表(予定) 8/24(月)

◇設計製図

課題発表(予定) 6/24(水)

試験日程 9/13(日)

合格発表(予定) 12/3(木)

■木造建築士試験

◇学科

試験日程 7/26(日)

合格発表(予定) 8/24(月)

◇設計製図

課題発表(予定) 7/8(水)

試験日程 10/11(日)

合格発表(予定) 12/3(木)

※受験申込の詳細については、建築技術教

育普及センターHPをご覧ください。

<https://www.jaeic.or.jp/>

令和8年度 建築士定期講習

5/20、6/12、7/17、7/29、8/26、9/16、
10/16、11/19、12/11、1/27、2/10、3/24

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和5年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員

5/20(水) 大阪府建築健保会館 70名

※6/12(金) 大阪府建築健保会館 70名

※7/17(金) (公社)大阪府建築士会 会議室
30名

7/29(水) (一社)大阪府建築士事務所協会 会議室

20名

※8/26(水) 大阪府建築健保会館 70名

9/16(水) 大阪府建築健保会館 70名

※10/16(金) 大阪府建築健保会館 70名

11/19(木) 大阪府建築健保会館 70名

※12/11(金) 大阪府建築健保会館 70名

1/27(水) (一社)大阪府建築士事務所協会 会議室

20名

※2/10(水) 大阪府建築健保会館 70名

3/24(水) 大阪府建築健保会館 70名

上記すべてDVD講習です。

※の日程：大阪府建築士会が運営

※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15~17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 建築技術教育普及センターHPより

令和8年度監理技術者講習

5/22、9/18、11/11、1/13、3/19

CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 5/22(金)、9/18(金)、11/11(水)、

1/13(水)、3/19(金)

各8:55~17:00

会場 本会会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

天王寺七坂の景観まちあるき

4/11 CPD3単位

起伏のある上町台地の「天王寺七坂」と呼ばれる坂や付近の寺院を巡ります。真言坂、源聖寺坂、口縄坂、愛染坂、清水坂、天神坂、逢坂の順で巡り、昔ながらの名水どころである「天王寺七名水」と呼ばれる付近一帯のまち歩きを行います。

日時 4/11(土)

14:15~17:00(集合受付14:00)

集合場所 地下鉄「谷町九丁目」駅3番出口付近

受講料 会員1,000円 一般1,500円

定員 20名

大阪避雷針工業神戸営業所

建築デザイン講習会

4/21 CPD2単位予定

当初は解体され、建替えられる予定だった築35年の既存建築を、躯体外装を残して再利用し、スクラップ&ビルドを超える価値の創出を目指したプロジェクト。これまで時を刻んできた既存RC躯体のもつ魅力を発見・抽出し、そこに木のもつ特有の力を組み合わせることで、時の流れを味方につけ、100年大切に使われる建築を見学します。

日時 4/21(火)

13:10~16:10(集合受付13:00)

受講料 会員2,500円

後援団体3,500円

一般4,500円

※別途、移動のための交通費が必要

集合場所 (株)竹中工務店神戸支店

(三宮プラザWest10階)

定員 40名



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

ミャンマー大地震を見て 建築士として 何が出来るか

4/24 CPD2単位予定

昨年ミャンマーで発生した大地震の現地調査へ、7月6日～12日に本会から4名が現地に渡航しました。現地では、復旧・復興のための各種団体との意見交換、セミナーの開催、大使館への報告会を主導して行い、活動を通じて、応急危険度判定・被災度判定の問題、補強設計・工事監理対策等、様々な問題について考えさせられました。

今回は、現地で行ってきた復興セミナーの内容、現地のリアルな状況について報告を行います。なお、この事業は継続中であり、日本全国47建築士会の中で大阪府建築士会が初めて取り組む国際社会貢献となります。

日時 4/24 (金)

18:30～20:00 (受付18:00～)

会場 大阪府建築士会 東会議室

講師 岡本森廣会長 ほか

受講料 会員1,000円 一般2,000円

定員 30名

東海道五拾七継を巡る 第3回

枚方宿まちあるき

4/25 CPD3単位予定

「淀川地域・東海道五拾七継」の大江～淀～枚方～守口～大坂高麗橋までを5回シリーズで巡るまちあるき企画の第3弾です。

京阪電鉄枚方市駅西口ロータリー集合～枚方宿東の見附～西の見附界隈～枚方市駅で解散。懇親会は枚方市駅近辺で予算は5,000円程度の予定です。

日時 4/25 (土) 13:30～16:30

終了後に懇親会を予定。

集合 枚方市駅西口ロータリーに13:15

講師 大阪府建築士会会員

定員 30名(申し込み先着順)

もう一度学ぶ「小屋裏換気とは」

ハウゼコ加西工場で学ぶ

日米の小屋裏換気基準の歴史と問題点 ～耐久性を上げる鋼板屋根の新技术～

6/4 CPD2単位予定

木造住宅における湿害などの事故事例の紹介や日米の小屋裏換気基準の歴史と問題点を整理するとともに、鋼板屋根の新技术を解説します。

セミナーのポイント

- ・近年の住宅トレンドと小屋裏換気の問題点
- ・小屋裏換気の基準と歴史
- ・小屋裏換気基準の問題点
- ・日本の屋根で今起こっていること
- ・屋根の新技术について

日時 6/4 (木)

14:00～16:30 (集合12:50)

受講料 会員1,000円 一般2,000円

※建築士の方のみご参加いただけます

集合場所 JR姫路駅 南口前

会場 株式会社ハウゼコ 加西工場

定員 20名

その他のお知らせ

近畿職業能力開発大学校主催 能力開発セミナーのご案内

5/9、5/16 5/12、5/19 6/3、6/10

■実践建築設計3次元CAD技術

基本設計図作成の効率化を目指して、3Dマイホームデザイナーを使って施主に対する提案を可視化する3次元のモデリング、外観・内観パースの作成方法について習得します。

日時 5/9 (土)、5/16 (土)

10:00～16:45 (2日間・合計12時間)

受講料 12,000円(税込)

■BIMを用いた建築設計技術(モデリング編)

～これからBIMを使いたい方に～

建築設計の生産性の向上を目指して、BIMソフトのRevitを用いたモデリング及び作成データの活用に関する技術を習得します。

日時 5/12 (火)、5/19 (火)

10:00～16:45 (2日間・合計12時間)

受講料 12,000円(税込)

■建築設計のためのコンピューショナルデザイン
建築設計の生産性の向上のために、ビジュアルプログラミングソフトを、外装材の割り付けや配置、複雑な屋根形状や勾配の検討などに活用する技術を習得します。

日時 6/3 (水)、6/10 (水)

10:00～16:45 (2日間・合計12時間)

受講料 14,000円(税込)

詳細・申込 近畿職業能力開発大学校HPよりご確認ください。

<https://www3.jeed.go.jp/osaka/college/index.html>

Talk Relay “わたしの推し” 記事募集

会員の皆さまの趣味やコレクション、特技、見聞など、リレー形式でご紹介していきます。建築に限らず、紹介したいこと、知って欲しいこと、広めたいこと、誘いたいこと、自己満足でも結構です。

会員の皆さまのコミュニケーションの場の一つとして、ご活用ください。

投稿をお待ちしています。

●詳細・申込は事務局まで

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

TEL: 06-6947-1961

東海道五拾七継を巡る 第2回八幡・淀まち歩き ～八幡・淀界隈を歩く～

地域まちづくり委員会 北河内・みしま野地域 神保 勲

2025年8月号「建築士」に掲載された大阪特集「淀川地域・東海道五拾七継」を歩くシリーズ第2回目である。前回は大津から山科へ、大阪に向かって歩いたが、今回は逆行するように、八幡から淀へと戻るルートを取った。京阪電車石清水八幡宮駅に集合。石清水八幡宮駅の目の前に男山が聳えている。山上までは石段の九十九折の階段が通っており、歩いてのぼることも可能であるが、ケーブルカーを利用することで楽に昇る環境が整っている。これを利用しない手は無い。往路はケーブルカーで男山山上までのぼり、石清水八幡宮本社が鎮座する境内を目指した。

石清水八幡宮の社殿の歴史は古く、その概略は昭和44年9月30日に発刊された『重要文化財石清水八幡宮社殿修理工事報告書』に詳しい。石清水八幡宮の創祀は貞観元年、大分県の宇佐神宮から勧請、翌2年に遷宮された。社号はもと石清水八幡宮護国寺と称し、神仏習合していた。社殿は幾度となく建築、焼失、取り壊しなどを経る。寛永11年8月22日に棟札をあげて造立された建物が現存の社殿である。棟札によれば、江戸幕府三代將軍徳川家光が発願して造立したことが判る。

様々な文献を紐解けば、織田信長は『信長公記』にある如く社殿を修造、現存する黄金



色の樋を寄進し、豊臣秀吉は一萬石を寄贈。徳川家康は検地の免除をしたと言う。三人の天下人が八幡宮を保護した裏には、男山山上からの眺望を我が物にして、物、人、金の動きを監視する目的を持っていたとも考えられる。

信長寄進の黄金の樋が現存しているということは、時代を経て家光が造立した建物の一部に信長寄進の樋が再利用されたことになる。現在ならばSDGsという言葉で称賛され

る行為であるが、家光が信長の黄金の樋を再利用した理由は、全てを一人で完成させたくなかったと共に、信長に畏敬の念を持っていたとも考えられると言う話をまことしやかに説明した。南総門から見える本殿の軸線角度が微かに歪んでいる話や楼閣などの装飾について説明を加えながら壮麗な社殿の様子を鑑賞した。

本社境内に至る道すがら、また山を下るまでの間、神仏習合していた様相を垣間見ることが出来る遺構の数々を説明し、今見えている姿とは異なる世界が広がっていたことに目を向けてもらった。

復路のケーブルカーでは、吉田兼好の徒然草に書かれた「仁和寺にある法師」の話しを聞くことができるのだが、今回は歩いて下ったので、聞くこと叶わず。夙に有名な話で、麓の極楽寺・高良神社を石清水八幡宮だと信じた仁和寺の法師に対して、兼好は『すこしのことにも、先達はあらまほしき事なり。』とつぶやいたとされている。

さて山上までの表参道、裏参道には石清水八幡宮に付随した「坊」と呼ばれる坊舎があった。「男山48坊」と呼ばれるお寺である。これらの坊の中に大石内蔵助所縁の坊がある。大西坊である。主君浅野内匠頭刃傷事件の後に大西坊にいた大石の養子「覚運」に





色々頼み事をしたとされている。

その他に寛永の三筆のひとり、松花堂昭乗が居た瀧本坊、昭乗が隠居して「松花堂」という寓居を建てた泉坊などを見て回った。「松花堂弁当」は、松花堂昭乗が十字に仕切られた農家の種入れなどの器を絵具箱や薬箱、煙草盆として愛用していたことが由来となって、現代になって創作された弁当であると言う話などで大いに賑わった。

石清水八幡宮駅から一駅電車に乗って淀駅に至る。ここでは淀城を中心に見て回ったが、その他に朝鮮通信使の使節団が船を降りて陸路を歩く出発点「唐人雁木」と呼ばれる船着き場跡地や「小橋跡」の石碑を見ることで往時の淀城、引いては淀宿界隈の様相を感じ取ってもらった。とは言いながら、実のところ淀宿は「此処にありました」とする明確な指標の様なものは見当たらない。また淀城についても転々と位置が変わっているとされており、織田信長が建てた淀城、豊臣秀吉が建てた淀城、徳川家光が建てた淀城と三者三様の淀城があったという研究者もいる。歴史は色々な説の上に成り立っている場合もあり、一筋縄では理解できないところがおもしろい。そこで少し面白がって、最後に与太話を書いてみる。

古い地図などによれば、京街道は淀小橋を

渡って、淀城の城下町である淀宿を通過し、淀大橋を渡って八幡領に至り、橋本へと抜けている。京街道を旅する人々は「淀城」の威容を目の当たりにしながら、旅をしたとも考えられる。淀宿の場所は定かではないが、淀城の城下町にあったと考えるならば、周辺の警備は怠る訳にはいかない。淀宿は関所の機能も併せ持ち、通行人の監視所にもなったと考えられる。一方で研究者の話では、「淀藩は赤穂浪士に相当な便宜を図っていたらしい」とされている。大石内蔵助が京山科で着々と討入りの計画を練っていたころ、京街道を通って淀宿、淀藩を統治する「淀城」内を通ることは容易であったとも考えられる。石清水八幡宮に祀られている八幡様は「南無八幡大菩薩」と唱えられ、戦の前に心の内で祈る様子が様々な戦記や物語で語られるように武神の側面がある。内蔵助が石清水八幡宮で本懐成就を祈願した後、男山から三川や天王山で形造られた「山」と「川」の風景を見て、敵味方を見分ける合図、「山」「川」と言う符丁を思いついたと考えても、「壮大な作り話だ」と一笑に付すには惜しい。



歴史の忘却に抗するために

京都会館(現・ロームシアター京都)一九六〇年竣工/二〇一六年改築

文・写真 松隈 洋 [神奈川大学建築学専攻教授]

時の流れは速く、今年二〇二六年は、二〇一一年三月十一日の東日本大震災から十五年の節目の年に当たる。復興は果たされたのか。振り返ってみると、この未曾有の震災と直後に起きた史上最悪の福島第一原発事故により、日本中が重苦しい陰鬱な空気に包まれていた当時の記憶が鮮明に蘇ってくる。私事ながら、被災地から遠く離れた京都に居ても、朝刊一面に日々刻々掲載される破局的な原発事故の事態におののき、春休み

中の学生たちにできるだけ遠くへ避難するよう伝えながら、自宅に閉じ籠って怯えていた。何一つ被災地の支援はできず、かろうじて、続く春学期の講義で、建築技術史の観点から原発の歴史の浅さと危うさを伝え始めたに過ぎない。その一端は、困難な中、わずか一カ月で八人のインタビューを敢行された竹内昌義さんの編著『原発と建築家』(学芸出版社二〇一二年)に収録される。さて、そんな最中であつた二〇一



失われた疎水沿いの重厚な西側外観 二〇一〇年撮影



最後の京都府吹奏楽コンクールの光景 二〇一一年八月三日

年の京都では、被災地の壊滅的な惨状や避難を余儀なくされた四十七万人に及ぶ人びとの抱える苦難とはかけ離れた建築計画が強引なかたちで進められようとしていた。今回は、そのことに触れておきたい。それは、前年の二〇一〇年十二月二十四日、「京都に最大級オペラ劇場」という見出しで、『日本経済新聞』(関西版夕刊)の一面トップに突如掲載された、京都市が前川國男の「京都会館」を全面改修し、国内最大級のオペラハウスに衣替える方針を固めた」とするスクープ記事が始まる。その動きは速かった。年明けの二〇一一年二月には、百十億の建設費の財源として、京都の大手半導体メーカーのローム社に、五〇年間の命名権が五十二億円で譲渡されることが発表される。しかも、残額は国庫補助金二十五億円と市債三十三億円であり、すべてが借金で賄われることになる。さらに、六月に公表された「京都会館再整備基本計画案」では、「建物価値を継承しつつ、より魅力的な「文化の殿堂」へと謳われる一方、建物の過半を占める第一ホールをすべて取り壊し、そこに現行法規では建設不可能な、高さ三〇mを超える舞台を持つ新築の劇場を建設する方針が明記されたのだ。そして、市民への公聴会による説明も専門家による開かれた検討作業も行われなまま、誰がいつ決めたのか分からない過大な計画により、同月、基本設計の委託業務先の公募が行われる。だが、唐突な公募に建築界の冷静な判断が働いたのだろう。応募者なしの異様な事態を招く。そこで、八月に応募条件を大幅に緩

和して再公募され、二社の中から基本設計者として香山壽夫が選ばれて改築の設計が始められていくのである。しかも、建物の過半を取り壊す条件で設計が進行中の九月になって、「建物価値継承に係る検討委員会」が後付けで唐突に設置される。実は、二〇〇七年に全国に先駆けて京都市が制定した「新景観政策」によって、京都会館の建つ岡崎地区の良好な景観を守るために十五m以下に高さ制限されていた。にもかかわらず、この突如浮上した再整備計画の策定後、基本設計中の二〇一二年一月に、京都市の都市計画審議会が、高い舞台が建設できるように後付けの形で、高さ制限の緩和を承認する。すなわち、京都市が独自に定めた景観規制を、自らの手で反故にする強引な施策が遂行されていったのである。京都会館は、前川の戦後の代表作として、竣工時に日本建築学会賞を受賞し、二〇〇三年には日本を代表する近代建築として、DOCOMOMO 一〇〇選にも選定されていた。そのため、二〇一二年二月に日本建築学会近畿支部から、三月に DOCOMOMO Japan から相継いで京都市長に保存要望書が提出される。また、八月には、ユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)の二〇世紀遺産に関する国際学術委員会からも「京都会館が前川國男の『最も重要な作品』かつ、『日本で最も重要な近代建築の一つ』であり、『大切に保存されるべき文化遺産』である」との意見書も京都市長に提出された。さらに、同月には、解体差し止めを求める住民訴訟も起こされる。

その間、地元の建築関係の有志により、「京都会館を大切にする会」(代表 表/吉村篤一)が結成され、前田忠直(京大名誉教授)、山崎泰孝らと共に、筆者もその活動に深く携わっていく。また、会の呼びかけに応じて、青木淳、奥村昭雄、神谷宏治、小嶋一浩、瀧光夫、長谷川堯、三上祐三、太田隆信ら約七十名からメッセージが寄せられ、二〇一一年十二月十八日、京都会館の大会議場で開催した緊急シンポジウムには、横文彦、富永謙、鈴木博之、花田佳明、横内敏人が手弁当で駆け付け、熱心な議論も交わされた。新聞各紙も高さ制限緩和を疑問視するなど繰り返し報道した。しかし、京都市は方針を変えず、二〇一二年九月から解体は始まり、過半が失われたのである。ちなみに、京都会館をこよなく愛した小田和正のインタビュー記事を含む当時の動きは『建築ジャーナル』(二〇一二年十月、十一月号)に詳しい。こうして、二〇一六年に改築されて誕生したロームシアター京都の二階記念する建築展示「京都会館/ロームシアター京都六五年の記録」が開催中(十一月三十日まで)だ。しかし、ここに記した経緯にはまったく触れられていない。それは当然かもしれない。そこには、前川が京都会館に込めた「京都をつくり上げた人達のような貴重な生命力のよるこびといったのであってはならない」とする思いや、「環境との調和」というテーマを引き継ごうとする哲学はまったく自覚されていないからだ。このような歴史の忘却に抗するために、これからも言葉を紡ぎ続けていきたい。

ARCHISM® SERIES

2026 »» 2027

God is in the details

細部への徹底したこだわりが、
本質的な美しさを決定づける——。
それは、私たちのものづくりに対する揺るぎない哲学。
ドアハンドルをはじめとするユニオンのプロダクトは、
あくまで空間のディテール。
しかしその佇まいや手触り、使用感には、
空間全体の印象を左右するほどの力が宿っています。
だからこそ私たちは、
アートウェアひとつひとつのディテールに、
どこまでも真摯に向き合いつづけていく。
美は細部に宿る。
その積み重ねが空間をさらに輝かせ、
人々の心を豊かにすると信じて。

2026 »» 2027



食堂と庭は透けて一体空間になっている。正面の道に面した扉を開放すると、住まいと街がゆるやかにつながる。



中央のギャラリー部分は濃いえんじ色、右の入口と左の庭部分は明るいグレーで構成し、軽やかな表情にしている。